

点数基準 よくあてはまる 4点  
 どちらかといえばあてはまる 3点  
 どちらかというにあてはまらない 2点  
 あてはまらない 1点

評価  
 A : 4.0~3.5 B : 3.4~2.9 C : 2.8~2.3  
 D : 2.2~1.7 E : 1.6~1.0

領域	評価の観点	No.		実践目標	平均	評価	分野	現状分析	今後の取組み・改善策	学校関係者評価
組織	学校運営全般	1	教	各分掌が重点目標を掲げ、機能的な組織の編成や部署間の連携を図りながら、教職員が協働して目標を達成できるよう努めている。	3.1	B	学 校 経 営	・各分掌の重点目標達成に向け、部長や主任を中心に、分掌内で連携を取りながら進められている。自分の所属する分掌への肯定感が低いのか、他の分掌との連携が足りないことで不満を感じているのか、昨年度よりも評価は若干下がっている。また、一部の教職員の負担が多いことが課題である。	・各分掌内ではベテランと若手の協働を進め、他の分掌に対してできるだけ多くの情報発信を行いながら、学校全体が組織として機能していけるようにする。また、教職員が運営組織に対して意見交換できる機会をもつなど、自分たちの組織に肯定感が持てるようにする。	【全体に関するコメント】 ・評価がどの領域もA・Bであり、教職員・生徒・保護者間の認識にも大きな開きがなく、良好な学校運営がなされていると判断できる。 ・全般に高い評価となっており、現状分析も適切に行われている。今後の取組み・改善策にも示されている通り、更に上の評価になるよう、引き続き継続して行ってほしい。  【No1 学校運営全般】 ・教職員の勤務の実態はどうなっているのか。教職員のワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、業務削減に努めていただきたい。  【No2 学校運営全般】 ・保護者の高評価「3.6」について着目し、要因（決め手）が何かを探ることが大切だと思います。学校の特色づくりにつながると思います。 ・学校運営全般に対する生徒と保護者の両者からの評価が一致して高いことは、日頃から、教職員の方と、生徒と保護者に対して積極的に円滑なコミュニケーションを測っておられることが、背景にあるのではないかと拝察します。円滑なコミュニケーションは、従来からの継続的な取り組みの成果であり、今後も、相互に意見を交わす機会、対話の場を大切にされることで、より良い学校運営の実現が可能になろうかと思い、強く、期待いたします。  【No4, No5 進路指導】 ・大学進学の見据えた将来のビジョンを描くなどのキャリア教育、進路指導は、今後ますます重要になると考えます。多感な思春期、自己を確立する時期になるであろう高校生活において、生きる意味、働くことの意義、ワーク・ライフ・バランスの実現など、自分自身の価値観について各々が自問自答する機会を持つことは、生涯に渡って、非常に有効であると考えます。 ・キャリア支援において、文系生徒への充実を図るためにどのような対応をされていますか。  【No4, No7】 ・知識を習得する学習活動を中心としながらも、行動を通じた自主性や自発的な取り組みを大切にされていることと思います。全国的にも従来の価値観にとらわれることのない新しい行事運営など見直しが急速に進んでいますので、生徒と保護者と一緒に行事の意義などを再考されて、教職員のワーク・ライフ・バランスを踏まえた取り組みへの変更などを進める良い機会にされていると推察しました。  【No4, No7, No9高評価の要因の例】 ①自由な校風で生徒主体 ②専門的な分野に強い先生方の存在 ③姫路城などの学校周辺の環境 ④学びを共有できる仲間が存在
			生	本校は、生徒・保護者の期待やニーズに応える教育活動を行っている。	3.2	B		・生徒、保護者は本校の学校生活全般に概ね満足しており、これ以上ない評価である。これに対し、教職員は現状の学校運営に比べ、内容としてさらに充実させられると感じているのか、さらに新たな企画を進めなければならないと案を練っているのか、少し低めの自己評価となっている。現状に満足して改善が見られない教職員集団よりは良いと考える。	・生徒、保護者に本校のスクールミッションやスクールポリシーへの理解を深めてもらうこと、そして高い満足度が継続できるように、学校教育全般では生徒の実態に合わせ一部修正を加えながら進めていく。 ・教職員は組織として取り組む意識を高め、ワークライフバランスを実践することで、自己肯定感が持てるように進めていく。	
			保	姫路東高校に入学させてよかった。	3.6	A		・保護者の評価は昨年度に比べ若干上がっている。生徒へのgoogle classroomでの発信を含めると、工夫しながら情報発信を増やしているが、生徒、保護者の要望には応えられていない部分もある。今以上の情報発信は、教員の勤務時間を考えても難しい。	・現状の情報発信を継続しながら、今年度後半に試行を始めたライデンメールでの情報発信を今後加えていく。今まで生徒が持ち帰っていた文書をメールで保護者に送付するもので、発出する情報量はほぼ同じだが、時機を逃さず見てもらえることが特長である。	
情報提供	開かれた学校づくり	3	教	ホームページや年次通信等を通じて、家庭や地域に情報を発信している。	3.3	B		・職業ガイダンスセミナーや企業訪問を通じて、多様な職業の種類や仕事の内容を学び、職業的な視野を広げている。 ・進路講演会、モチベーションアップセミナー、合格体験講話を通じて、志望大学・学部選択の留意点や最新の入試動向など大学受験に必要な情報を提供している。	・職業ガイダンスセミナーや企業訪問については、実態(社会の変化・ニーズ)に即した講座を設定し、働くことの意義を理解させ、社会との関わりの中で自己実現を目指すきっかけとする。 ・模擬試験の結果・分析を各年次に迅速に伝え、生徒一人一人の進路実現に向けて、教科指導、面談等に活かせるようにする。 ・個々の大学の最新入試情報や過年度の入試結果の分析資料を積極的に提供していき、自ら進路選択ができる素地を作れるようにする。	
			生	本校は、ホームページや年次通信などを通して、さまざまな情報を提供している	3.1	B		・年間3回の「いじめに関する生徒調査」はもちろん、日々の生徒観察や教職員間の情報共有がなされ予防的な対応が効果的に行われている。ただし、コミュニケーション能力の弱い生徒が増え、望ましい人間関係の構築に苦勞をしている生徒への対応が十分にできていない。	・HRや集会などでのいじめの未然防止の啓発機会を増やす。それ以上に、他者理解の深化による孤立感の解消がいじめの未然防止につながるのと観点から、生徒のコミュニケーション能力の向上に取り組む。 ・年次、年次外の垣根を低くし、組織的対応能力を強化する。	
			保	3.1	B	・各行事の実施については、感染予防対策を緩和しながら生徒主体で実施することができ、多くの生徒が充実感、達成感の高まりをより強く感じる事ができた。ただし、学習活動との両立を優先した行事の見直しが必要である。		・行事の出来栄のみならず経過も適切に評価し、充実感や達成感をより強く感じる事ができる自主・自発的な態度の育成に取り組む。リーダー育成の視点での働きかけも必要。また、SSHやキャリア教育を含めた行事全体の見直し（改廃）に取り組む必要あり。		
キャリア教育	進路指導	4	教	本校は、キャリア教育（職業ガイダンスセミナー・企業訪問など）が充実している。	3.6	A		・地域貢献活動については少しずつではあるがコロナ禍前に戻ってきた。一方、ボランティア活動については、姫路城の「お城清掃」は継続できているが、他の行事やイベントとの調整が難しく、昨年比で低調と言わざるをえない。	・地域貢献やボランティア活動についてはこれまでの実績に加え、主体的に考え判断し行動できる能力を育成する絶好の機会ととらえ、他の活動や行事とのバランスのとれた取り組みを探りながら、身近に参加できる活動について紹介する機会を増やしたい。	
			生	3.6	A	・行事については新型コロナが5類に移行したこともあり、さらに制限を緩和した内容で生徒会を中心に様々な工夫をして取り組むことができていく。特に、リーダーシップの育成を強調していきたい。				
			保	3.4	B					
		5	教	本校は、将来について考え、進路目標を明確にするための情報が学校から提供されており、生徒の進路希望に応じた指導を行っている。	3.3					
			生	3.4	B					
			保	3.2	B					
生徒指導	生徒指導	6	教	本校は、いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる。	3.2		B	・地域貢献活動については少しづつではあるがコロナ禍前に戻ってきた。一方、ボランティア活動については、姫路城の「お城清掃」は継続できているが、他の行事やイベントとの調整が難しく、昨年比で低調と言わざるをえない。	・地域貢献やボランティア活動についてはこれまでの実績に加え、主体的に考え判断し行動できる能力を育成する絶好の機会ととらえ、他の活動や行事とのバランスのとれた取り組みを探りながら、身近に参加できる活動について紹介する機会を増やしたい。	
			生	3.3	B	・行事については新型コロナが5類に移行したこともあり、さらに制限を緩和した内容で生徒会を中心に様々な工夫をして取り組むことができていく。特に、リーダーシップの育成を強調していきたい。				
			保	3.2	B					
		7	教	本校は、学校行事の内容が充実しており、学校生活を豊かにしている。	3.5		A			・生徒会行事への取り組みについては、仲間の多様な個性や感性を理解し、独自の価値観を創造できる能力の育成を視点に、生徒会を中心にクラス、有志グループ等における自主自立の活動を呼びかけていく。
			生	3.5	A					
			保	3.5	B					
地域連携	特別活動	8	教	本校は、地域貢献活動やボランティア活動等への積極的な参加を促し、地域に奉仕する心を育成している。	3.0		B	・地域貢献活動については少しづつではあるがコロナ禍前に戻ってきた。一方、ボランティア活動については、姫路城の「お城清掃」は継続できているが、他の行事やイベントとの調整が難しく、昨年比で低調と言わざるをえない。	・地域貢献やボランティア活動についてはこれまでの実績に加え、主体的に考え判断し行動できる能力を育成する絶好の機会ととらえ、他の活動や行事とのバランスのとれた取り組みを探りながら、身近に参加できる活動について紹介する機会を増やしたい。	
			生	3.1	B	・行事については新型コロナが5類に移行したこともあり、さらに制限を緩和した内容で生徒会を中心に様々な工夫をして取り組むことができていく。特に、リーダーシップの育成を強調していきたい。				
			保	3.2	B					
		9	教	本校は、生徒会行事の運営に関して、生徒会を中心にして、生徒が積極的ににかかわる機会をつくっている。	3.4		B			・生徒会行事への取り組みについては、仲間の多様な個性や感性を理解し、独自の価値観を創造できる能力の育成を視点に、生徒会を中心にクラス、有志グループ等における自主自立の活動を呼びかけていく。
			生	3.5	A					
			保	3.4	B					

点数基準 よくあてはまる 4点  
 どちらかといえばあてはまる 3点  
 どちらかというにあてはまらない 2点  
 あてはまらない 1点

評価  
 A : 4.0~3.5 B : 3.4~2.9 C : 2.8~2.3  
 D : 2.2~1.7 E : 1.6~1.0

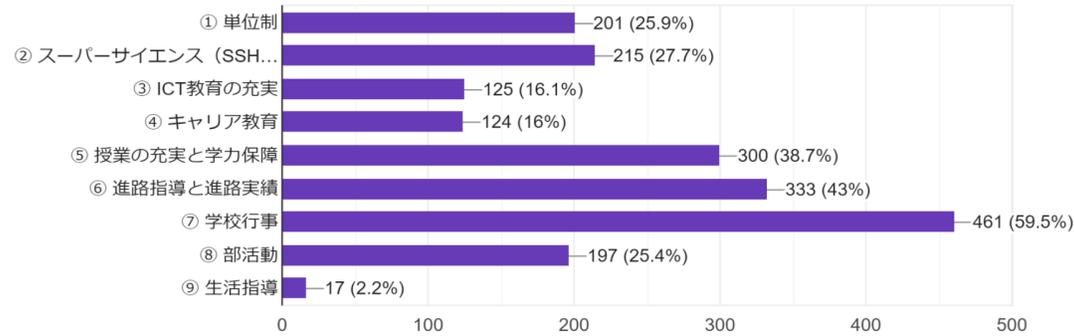
領域	評価の観点	No.		実践目標	平均	評価	分野	現状分析	今後の取り組み・改善策	学校関係者評価
教育課程	学習指導	10	教	本校は、少人数や習熟別などのきめ細かい学習指導を行い、学習内容の定着に努めている。	3.3	B	教育課程	・2・3年次の講座では、少人数開講や習熟度別授業の導入が進んでおり、より手厚い学習指導を行うことができている。1年次では、教室不足等の理由もあり、学級単位での学習が中心である。 ・1・2年次では観点別評価が行われ、特に、主体的に学ぶ態度の評価については科目担当者や教科を中心として、入念に検討されている。 ・各教科で授業の相互見学などを実施し、授業改善に努めている。また、授業単元ごとに生徒に振り返りシートを記述させ、書かれた意見をもとに授業改善につなげている科目も増加している。	・少人数開講や習熟度別授業の利点を活かし、より一人一人の個性を伸張する授業を展開する。1年次ではグループワークなどアクティブラーニングを積極的に導入し学習効果の向上を図りたい。 ・よりよい観点別評価の方法を検討し、教科間の連携を深めるとともに、『ガイダンスブック』などを通じて生徒や保護者への周知に努めたい。	・中学生活、高校生活の中で、コロナ禍というこれまで誰もが予想できなかった世界的なパンデミック、困難を経験している生徒の皆さんに対して、より多様な価値観を認め合う社会に実現や、新しい人生の目標の明確化など、広い視野で物事を考えられるようなキャリア教育に取り組みをされておられることに敬服いたします。  【教育課程の項目について】 ・現状分析に対し、評価がやや厳しい判断になっている。もう少し高い評価があってもいいのではないか。  【No12 教職員の資質向上】 ・配慮に欠くと思われる教職員への対応はどのようにされていますか。
			生		3.3	B				
			保		3.2	B				
		11	教	各科目の学習評価は適切に行われている。	3.3	B				
			生		3.3	B				
			保		3.3	B				
資質向上	教職員の資質向上	12	教	各教科、科目において学習内容や指導方法について研鑽し、授業改善や指導力向上に向けて取り組んでいる。	3.3	B				
			生	本校の学習指導は充実しており、教員は生徒の学力向上のために熱心に指導している。	3.4	B				
			保		3.2	B				
特色教育	SSH事業の活用	13	教	本校は、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業を活用し、幅広い教育活動を展開している。	3.5	A	SSH	・生徒アンケートによると、全学年のすべての項目で「効果があった」と答えた生徒が大きく増加している。特に理数の面白そうな取り組みに参加したと答える生徒は1、2年次で80%を越えている。生徒がSSH事業に積極的に取り組んでいることが分かる。また文理の枠組みを越えた活動を意識した生徒も1年次で41%、2年次で40%であった。 ・1年次で、文理の枠を超えた議論を意識したと答える生徒が47%、文理を融合して新しい視点を獲得したと答えた生徒も41%にのぼり、全学年の中で最も高い。文理選択前である1年次生徒が、文理の枠を超えて議論する雰囲気をもっている。2、3年次も35~40%を占める。課題研究の視点が広がっている。	・生徒の独創性が育っていないと答える教員が多い。生徒自身は20%前後が大変向上したと答えているのに対して教員はわず4%である。このギャップを埋める工夫が必要である。 ・課題研究に熱心に取り組んでいるがゆえに、部活動との両立が難しい、授業時間以外の取り組みが多い、発表準備が大変、と答える生徒が多い。どのように評価し、過度な負担があればどのように減らしていくのかについて議論をしているところである。	
			生		3.5	A				
			保		3.4	B				
	課題研究	14	教	本校は、生徒が探究活動に取り組むことで、探究活動を通じて思考力・判断力・表現力を高める教育を行っている。	3.4	B				
			生		3.5	A				
			保		3.4	B				

点数基準 よくあてはまる 4点  
 どちらかといえばあてはまる 3点  
 どちらかというにあてはまらない 2点  
 あてはまらない 1点

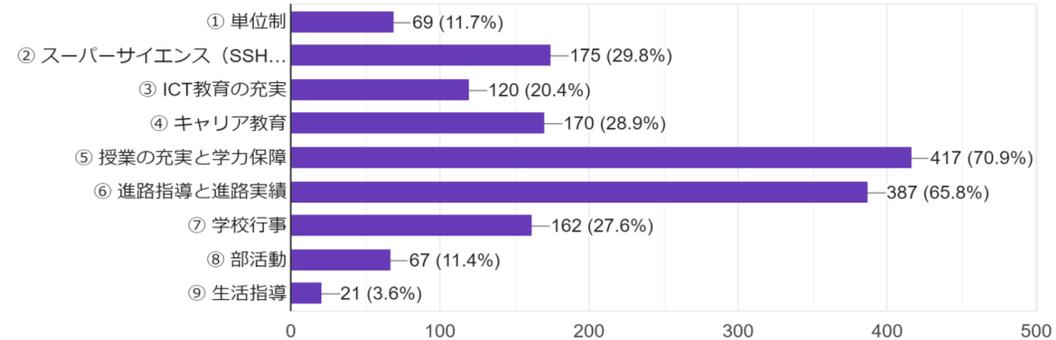
評価  
 A : 4.0~3.5 B : 3.4~2.9 C : 2.8~2.3  
 D : 2.2~1.7 E : 1.6~1.0

領域	評価の観点	No.		実践目標	平均	評価	分野	現状分析	今後の取組み・改善策	学校関係者評価
安全管理	防災教育	15	教	学校は、防災避難訓練等を計画的に実施し、生徒の防災と安全に対する意識を高めている。	3.4	B	各	・地震による火災発生、水害を想定した訓練に加え、兵庫県津波一斉避難訓練に参加し、計3回の防災避難訓練を実施している。 ・ハザードマップや避難先を確認するなど、事前事後指導を通じて防災や安全を考えるきっかけになっている。	・「この質問についてはよくわからない」という回答している保護者が多いことから、本校での防災教育が家庭や地域と連携したものになるような実施方法を検討したい。	・本校の特色でもあり、高い評価となっている点は、納得できる所である。今後の取組みを進め、更なる高みを目指してほしい。  【No16 保健・安全教育】 ・保護者評価「3.1」が若干低い原因は何でしょうか。
			生		3.4	B				
			保		3.3	B				
保健管理	保健・安全教育	16	教	学校は、日常的に感染症予防に努め、衛生的で、安心して安全な学校づくりをめざしている。	3.3	B	各	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行された後も、常時換気と手指消毒液の設置等の感染症防止対策は続けた。 ・今年度は学校行事後に新型コロナウイルス、インフルエンザの生徒が増えた。欠席状況を把握し部活動を停止させる、感染者が多かったクラスは生徒を帰宅させる等対応し再度、手洗い・換気・健康観察をすることを呼びかけた。	・今後も感染症防止対策に努めるとともに、生徒が感染症予防について正しく理解できるように取り組んでいきたい。また、最新の情報を的確に把握し、職員・保護者間で共有しながら安心して安全な学校づくりを目指したい。	【No18 ICT教育の導入】 ・自宅での学習や学校外でのBYOD端末の活用など、学校全体でのICTを活用した学習等の取組みが進んでいるように見受けます。新しい環境への順応性の高い生徒の方々と、教職員の方々との間で、より良い活用方法などを一緒に考えて取り組まれているように感じております。県立学校のネットワーク環境が不安定であることにより、学校活動に支障があることは、組織的に解決に当たる必要があるとご確認の通りかと思えます。「国際理解教育」に対する生徒と保護者の方々からの意見や要望は、具体的にどのような項目であるのか、以前との違いがあるのかなど興味を持ちました。
			生		3.3	B				
			保		3.1	B				
人権教育	人権教育	17	教	本校は、教育活動を通じて命や人権を大切にす態度を育てており、生徒は安心・安全な学校生活を過ごすことができる。	3.2	B	各	・今年度は、文部科学省の人権教育研究推進事業を学校全体で進めてきた。「共生社会の実現に主体的に取り組む実践力の育成」を目標に、アイヌの人々・子ども・女性・外国人という人権課題について考えるため、人権LHRや講演会、ワークショップ等の機会を充実させた。 ・生徒たちは行事やLHRを通して、自分と相手の命や人権を大切にす心を育てているように思われる。	・今年度重点的に取り組んだ人権課題以外のものにも目を向け、教職員の人権意識のさらなる向上を目指していき、生徒が安心して学校生活を送れるような環境づくりに力を入れていく。 ・今後も行事や講演会を充実させ、人権について考える機会を増やすことで、生徒たちが自他への理解を深め、多様性を認め合えるようにする。	【No19国際理解教育】 ・4年ぶりのオーストラリアでの海外研修実施とのこと、大変喜ばしく思います。ご苦労の非常に大きかったのではないかと拝察いたします。オンライン交流など海外とのコミュニケーション能力の向上や、相互理解などは、非常に重要な取組みである考えます。「こ
			生		3.4	B				
			保		3.3	B				
教育環境	ICT教育の導入	18	教	本校は、ICT機器を活用し、授業内容の充実や学習の効率化を図っている。	3.4	B	活	・BYODの年次進行に伴い、探究活動や各授業、ホームルームでタブレット端末の活用が進みICT機器の普段使いが広がっている。 ・県立学校のネットワーク環境が不安定なため、ICT機器利用時に不具合が定期的に発生する。	・探究活動や各授業でのICT機器活用が進んでいるため、研修を通して効果的な活用について教員間で共有し研究していく。 ・教育委員会と協力し、ネットワーク環境の改善に努めていく。 ・BYOD端末は、これまで同様、年度ごとに最適な端末を選定し、保護者負担の軽減をはかっていく。	【No20 環境整備】 ・設備の充実は、どのような対応をされていますか。
			生		3.5	A				
			保		3.3	B				
国際理解	国際理解教育	19	教	本校は、国際交流の機会を提供し、広い視野で物事を捉えられる生徒を育成している。	3.6	A	動	・オーストラリアでの海外語学研修を4年振りに再開した。2年次生希望者20名がシドニー近郊のNepean Christian Schoolを訪れ、ホームステイを行った。英語力を高めるとともに、異文化を理解する貴重な経験となった。 ・西オーストラリア州パース近郊のKolbe Catholic Collegeの生徒とオンライン交流会を開催した。実際に英語を使って、同年代の外国人とコミュニケーションをとることで、英語学習の意欲を高めた。	・英語力を高めるだけでなく、異なる文化や価値観を理解し、国際社会で主体的に生きる力を伸長させるための機会を与えていく。 ・オンライン交流会や動画交流を継続的にを行い、生徒が語学力やコミュニケーション能力を育成できる機会を与えていく。	・予算を伴い難しいと思いますが、斬新かつ機能的な環境を、生徒も保護者も求めていると思います。焦点化した、継続した要求が大切だと思います。
			生		3.4	B				
			保		3.3	B				
環境整備	環境整備	20	教	学校の施設設備の管理がなされており、学習に適した環境が整備に努めている。	3.1	B	各	・夜間照明のLED化、教室床の改修、トイレの様式化等順次整備を務めているが、築年数の古さによる経年劣化が評価に反映しているように感じる。	・今年から3か年計画で実施している「部活動応援事業」により、経年劣化した部活動部品等の更新を進める。また、教育環境についても計画的に整備を進める。	
			生		3.2	B				
			保		3.0	B				
外部対応	案内・対応	21	教	来訪者への案内、外部からの電話に対し、丁寧でわかりやすい対応をしている。	3.4	B	外部	・窓口や電話対応について、昨年度に引き続きB評価を受けており、明るさや丁寧さに欠ける部分がある。	・明るさや丁寧さを全職員が意識し、相手の立場に立った接遇を心掛けるように周知徹底する。	
			保		3.3	B				
		22	教	就学支援金や各種奨学金等の案内や、窓口手続きの説明は、わかりやすく丁寧にしている。	3.3	B				
保	3.2		B							

【生徒】 本校に期待することを選択してください。（3つまで複数回答可）  
775 件の回答



【保護者】 本校に期待されるものをお答えください。（3つまで複数回答可）  
588 件の回答



領域	評価の観点	No.	実践目標	現状分析	今後の取組み・改善策	学校関係者評価
年次運営	年次運営	23	1 年次 報告・連絡・相談によって、年次文化を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と保護者で大きく異なるのは、①単位制と⑦学校行事である。</li> <li>・生徒が期待する「単位制」と実態が乖離しないように、丁寧な対応が必要である。そのために、キャリア教育の涵養や、進路意識の醸成を十分に図った上で、次年度のカリキュラムを決定しなければならない。</li> <li>・生徒の「学校行事」への期待が高いのは、コロナ禍における中学校生活の反動が要因として考えられる。</li> <li>・生徒、保護者共に⑤授業の充実と学力保障⑥進路指導と進路実績の期待度が高い。教員の授業力を高めるために、研修や教材研究に注力できるよう、学校生活全般を見通したコントロールが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が期待する「学校行事」や「SSH」の取り組みの充実を図りながら、その充実が、人間的成長と学業への意欲につながるよう努めたい。</li> <li>・年次通信や三者面談を通して、保護者との連携を深め、生徒の希望進路実現へとつなげたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生活への期待に十分対応できる工夫を続けてほしい。</li> </ul>
		24	2 年次 生徒の知的探究心を亢進し、進路意識を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校行事」への関心が高い生徒に対して、保護者は「授業の充実と学力保障」「進路指導と進路実績」に大きな期待を寄せている。</li> <li>・生徒は「単位制」「SSH」の回答比率が同程度であるのに対して、保護者の回答においては後者が前者を15ポイント以上上回っている。</li> <li>・生徒においては16ポイントである「キャリア教育」が、保護者においては28.9ポイント。</li> <li>・生徒においては25.4ポイントである「部活動」が、保護者においては11.4ポイント。</li> <li>以上のことより、生徒は自身の将来を気にしつつも学校生活の充実に意識を向けており、一方の保護者は実学志向的な向きが強いということが窺える。</li> <li>また、「単位制」というシステムそのものの特色は、生徒においては「自分の学びたいことが学べる」というような言説の水準においてかろうじて認識されているが、保護者においては実感されにくいものであると推察される。</li> </ul>	<p>今後は生徒の意識も自身の進路へと焦点化されていくことが予想されるが、日々の学びが「受験で点を取るための勉強」に矮小化してしまわないよう、一つ一つの授業において広い意味での向学心を涵養すべく努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校での中心的な年次であり、充実した生活を送れるよう、引き続き取り組んでほしい。</li> </ul>
		25	3 年次 生徒の進路実現に向けて、十分な支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者については、「授業の充実と学力の保証」「進路指導と進路実績」の2項目への期待が突出している。高校生最終年という時期であるため、一層際立っていると考える。</li> <li>・「学校行事」に期待する生徒が多いが、コロナ禍が終息して、以前同様に戻すのではなく、生徒が余裕のある学校生活を送ることができ、保護者共々納得した形で、取捨選択していくべきだろう。</li> <li>・本校の柱である「SSH」・「キャリア教育」に期待があるが、その活動について保護者に十分伝わっていない可能性がある。</li> </ul>	<p>残されたわずかな高校生活ではあるが、生徒全員の進路希望実現のために、教職員一丸となって最大限取り組めることに尽力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の人生の方向性が見えてくる大事な年次であり、引き続きしっかりとした取り組みを続けてほしい。</li> </ul>